

No.2

下野市立石橋中学校



校長室だより

目指す学校像

『未来を、たくましく生き抜ける生徒』の育成
キーワード「自立・貢献・創造」

スローガン

～生徒も先生も、自ら輝く学校～

令和3年4月26日（月）

発行者 田熊 利光

【生徒の命を守る取り組み】

4月12日（月）スケアード・ストレート方式による交通安全教室

スタントマンの方の迫真の演技に交通事故の怖さを実感し、交通安全の意識が高まったと思います。とても真剣な態度で素晴らしかったです、と担当の板倉先生から報告を受けました。

1年生の感想です。「交通事故の怖さを学ぶことができた。スタントマンの方が身をもって再現してくれたため、当たり前前の事をサボってやらないと、とても危険だということがよく分かった。普段見ているだけで、守っていない標識も守らないと危険ということを学んだ。」



4月14日（水）交通指導員さんによる交通安全教室

12日のスタントマンの実演による交通安全教室に続き、地域の交通指導員の方を講師として、具体的な事故の事例と予防策について講話をいただきました。テレビによる講話と問題演習でしたが、生徒たちは真剣に学んでいました。

2年生の感想です。「私の学校までの通学路を頭に思い浮かべながら考えた。すると、危険予測トレーニングの5番のような道がいくつかあった。私は狭い道を通ることがあるので、常に危険を予測して登下校したい。特に死角を意識したい。」

4月23日（金）避難訓練実施

給食室からの火災を想定した避難訓練を行いました。全校生徒が真剣に取り組んでいる様子を見て、交通安全教室の成果を感じました。避難訓練担当の板倉先生からは、東日本大震災の時の体験談。心臓の悪い生徒を4階から一緒に降りてきた話をもとに、いつ起きるか分からない災害時はみんなで助け合うことが大切。そして、「自分の命は自分で守る」という意識を持つことの大切さを話していただきました。

私からは『学校では、君たちの命以外に守るべきものはありません。君たちの命以上に大事なものは存在しないということです。今日は、火災を想定した避難訓練でした。万が一の火災の時に自分の命を守るための訓練をしました。一番危険なのは、正常性バイアスです。本当は危機が迫っているのに、「どうせ大丈夫だろう」「いつもと同じだから心配ない」と思い込む感覚のことです。「慣れに潜む危険」と言い換えてもいいと思います。それが一番怖いのです。「慣れ＝危険」です。想定外の災害の時は、先生もみなさんの親も君たちのことを守ることはできません。だから、「最後は自分」ということです。避難訓練などで学んだ知識を生かし、困難な状況を切り抜ける判断力と柔軟な対応力を身に付ける必要があるということです。「かけがえのない自分の命を、自分で守り抜くんだ。」という強い意志を今日の避難訓練を通して、改めて再認識してください。』という話をしました。真剣に話を聞く態度が大変素晴らしかったです。

3年生の感想です。「先生の指示にただ従って動くだけではなく、自分で考えて動くということが大切だということ、どんな災害が起こっても命を守ることが一番であることを学びました。」「訓練だから大丈夫と思わずに、もっと考えながら落ち着いて冷静に行動しようと思いました。」

